

研究主題 「合意形成をする話し合い活動の工夫

－伝え合う力を活用し、話し合いをまとめる力を育てる指導を通して－

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

台東区立台東育英小学校 主任教諭 神谷なおみ

I 研究のねらい

特別活動は、望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育成することをねらいとしている。よりよい生活を築くためには、生活上の諸問題について話し合い、意見をまとめ、全員で協力して課題解決に取り組むことが必要となる。そのためには、互いの思いや願いを理解し合い、異なる意見について説得したり、互いの意見のよさを生かし合ったりして折り合いを付け、合意形成していくことが必要である。そこで本研究は、児童が国語科で身に付けた「伝え合う力」を特別活動の話し合い活動で活用し、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合い、話し合いをまとめていくことを通して、合意形成できるようにすることを目指す。そのために、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習内容と話し合い活動とを関連させた「合意形成をするための指導計画」を作成し、指導モデル及び自己評価カードを開発することとした。

II 研究の内容と方法

1 研究仮説

他者の立場や考えを尊重して伝え合い、互いの思いや願いを理解して、話し合いをまとめる力を育てる指導を工夫すれば、児童は話し合い活動を通して合意形成できるようになり、望ましい人間関係や楽しい学級生活を築こうとする自主的、実践的な態度が育つであろう。

2 基礎研究

(1) 「合意形成をする話し合い」とは

中央教育審議会答申（平成20年1月）では、特別活動改善の具体的事項で重視する内容として、「合意形成をする話し合い活動」を示している。また、折出健二氏は、「討議の合意形成がはぐくむ子供たちの関係性を特別活動の教育内容として重視する考え方が、近年追求されている。」と述べている。本研究における「合意形成をする話し合い」を、「互いの思いや願いを理解し合い、折り合いを付けながら、自分もよく、他者もよい解決方法を見出す話し合い」ととらえた。また、「折り合いを付ける」を、「話し合いを通して、自分の意見を変容させたり、他の意見に譲歩したりして集団としての意見をまとめていくこと」ととらえた。

(2) 「伝え合う力」について

小学校学習指導要領解説国語編（平成20年8月）では、「伝え合う力とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力である」と述べられている。本研究は、「国語科で身に付けた話すこと・聞くこと的能力が、特別活動においてよりよい生活や人間関係を築いたり、集団としての意見をまとめたりするための話し合い活動に実践的に働くことになる。」（小学校学習指導要領解説特別活動編 平成20年8月）との考えに基づき、国語科で身に付けた「伝え合う力」を活用した話し合い活動の指導方法を開発した。

「合意形成をする話し合い活動の工夫
 -伝え合う力を活用し、話し合いをまとめる力を育てる指導を通して-

3 調査研究

表1 調査の概要

平成21年7月、都内公立小学校第3・4学年児童を対象に意識調査を行った。質問項目「学級会で決まったことに不満や文句はない」について肯定群と否定群に分類し、否定群について分析を行った。その結果、文句や悪口を言ったり、自分の考えを発言できなかつたり、人の話を最後まで聞けなかつたりして話し合いがまとまらないなど、児童は国語科で身に付けた力を特別活動で十分に生かしていないことが分かった。このことから、「国語科で身に付けた伝え合う力を活用し、話し合いをまとめる方法を身に付けさせる指導の工夫」が取り組むべき課題として明らかになった。

(1) 調査対象：都内公立小学校3校 第3・4学年児童 計253名
(2) 調査時期：平成21年7月
(3) 調査方法：質問紙法(4件法)
(4) 児童への質問紙調査の内容 ・伝え合う力の活用・合意形成 ・話し合いをまとめること ・司会として話し合いをまとめるときに困ったこと ・話し合いに対する意欲が低下する要因

4 開発研究

(1) 話し合いをまとめ、合意形成をするための指導計画の作成

国語科の「話すこと・聞くこと」の学習内容と話し合い活動を関連させ、「合意形成をするための指導計画」を作成した。まず、学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」(以下学級活動(2)とする)で、児童に司会の仕事を振り返らせ、学級全体で「話し合いをまとめる方法」を考えさせた。次に、その内容を学級活動「(1) 学級や学校の生活づくり」(以下学級活動(1)とする)の話し合い活動で生かし、合意形成をすることができるようにした。

表2 合意形成をするための指導計画(抜粋)

	学習活動	教師の支援	国語科における学習との関連
検証授業① 学級活動(2) 「学級会の話し合いをまとめる方法を作成しよう」	司会の仕事について振り返り、学級の「話し合いをまとめる方法」を作成する。 ①学級の現状を知り、課題を共有する。 ②困った場面ごとの対応策をカードに書く。 ③よりよい話し合いのまとめ方ができるように話し合う。 ④まとめる。	○問題を自分のこととして主体的にとらえることができるように、自己の経験と照らし合わせて考えるように助言をする。 ○意見が出ない場合は、二人組での対話を取り入れる。	第1学年及び第2学年「A話すこと・聞くこと」(2)内容①指導事項 オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 第3学年及び第4学年「A話すこと・聞くこと」(2)内容①指導事項 オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。 (2)内容②言語活動例 イ 学級全体で話し合って考えをまとめた
検証授業② 学級活動(1)	「話し合いをまとめる方法」を活用して話し合う。 ・司会は、学級活動(2)「学級会の話し合いをまとめる方法を作成しよう」で作成した「話し合いをまとめる方法」を場面に応じて活用しながら話し合いをまとめる。 ・国語科で身に付けた伝え合う力を活用するために、児童が自己のめあてを立てて話し合いに参加する。終末の振り返りで、伝え合う力を活用できたかを自己評価する。	○めあてに沿って活動できるように助言をする。 ○活動に対する意欲を高めるような助言をする。 ○児童のよさを具体的に賞賛する。 ○必要に応じて課題を投げかける。	第1学年及び第2学年「A話すこと・聞くこと」(2)内容①指導事項 イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通な言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。 エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。 オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。 第3学年及び第4学年「A話すこと・聞くこと」(2)内容①指導事項 イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

(2) 指導モデルの開発

表3 話し合いをまとめる方法(抜粋)

① 学級活動(2)の指導モデル

児童が、司会の役割に着目し、学級独自の「話し合いをまとめる方法」を作成する指導モデルを開発した。

<活動の流れ>

- ・児童が司会の仕事について振り返る。

「話し合いをまとめる方法」3年〇組
意見が対立したとき
・～の点はにっていますが、～の点はちがいます。 ・みんながなっとくできる意見はありませんか。
意見があまり出ないとき
・まわりの人と2分間話し合ってください。 ・前に出た意見につなげて言ってください。

- ・ 司会をしていて困ったことを出し合う。
- ・ 事前のアンケートから、学級の話合いの課題を把握し、共有する。
- ・ 話し合いのまとめ方を考える。

この時間に作成した「話し合いをまとめる方法」を使って、学級独自の司会台本を作成し、司会が話し合いの様々な場面において、進行の参考にすることができるよう工夫した。

② 学級活動(1)の指導モデル

学級活動(2)「学級会の話合いをまとめる方法を作成しよう」を受け、話し合い活動で合意形成をさせるための指導モデルを開発し、話し合いで合意形成をさせるための視点や指導上の留意点を示した。また、教師が、児童の伝え合う力の活用状況を適切に把握できるように、「合意形成をするための児童の発言パターン」を作成した。これは、小学校学習指導要領解説国語編及び特別活動編の指導事項に基づき、発言例を分類したものである。

(3) 伝え合う力を活用するための自己評価カードの開発

自主的、実践的な態度を育成する特別活動では、児童が活動後に自己の取組を評価することが重要である。そこで、学級活動(1)の話し合い活動において、伝え合う力を活用するための自己評価カードを開発した。開発にあたっては、まず、教師が小学校学習指導要領解説特別活動編、国語編（平成20年8月）の内容から、学級の実態に合わせて自己評価の評価項目例を作成し、児童に提示した。次に、児童がその中から自己の評価項目を決定した。このカードを活用することで、児童がめあてをもって活動に取り組み、終末の振り返りで伝え合う力の活用について自己評価できるようにした。また、自己の取組のよさに気付くとともに、新たな目標や課題を見出し、伝え合う力をよりよく活用しようとする意欲をもつことができるようにした。

表4 司会の変容

自己評価カードから分かる変容	教師が観察により把握した変容
司会が、話し合いの流れからそれたとき、もとにもどしていました。	発言が話し合いの流れからそれているときには、司会がそのことを告げ、もとに戻すことができた。
グループで2分間話し合ったので、たくさんの人が、意見を言うことができました。学級会カードを見て、発言することができました。	意見が出ない場合は、話し合いの形態を変え、小グループでの話し合いを取り入れるようになった。議題について事前に自分の意見を考えてから学級会に参加できるように、学級会カードに考えを書く欄を作成し、事前に配布するようになった。
司会がたくさんの人を指していました。	多くの人の意見によって話し合いが進んでいくように、指名の仕方を工夫することができた。
司会の人や、○○君や○○君の意見の説明をしていてよかったです。	参加者全員に発言の内容が伝わるように留意して進行する姿が見られた。不明な点を聞き返したり、発言に補足をしたり、全体に確認したりしながら進めることができた。
司会が、時計を見て進めていた。	話し合いを広げる時間と話し合いをまとめる時間の配分を意識して進行することができた。

Ⅲ 研究の結果と考察

1 指導計画の有効性

検証授業では、司会と司会以外の児童に次のような変容が見られた。司会は、話し合いの流れに沿って進行することができた。発言が話し合いの流れからそれたときには、司会がそのことを告げ、もとに戻した。また、多くの児童の発言によって話し合いが進むように、話し合いの形態を変えたり、事前に学級会カードを作って活用したりと工夫することができた。意見が対立したときには、それぞれの立場の意見を引き出して、進行する姿が見られた。検証授業前は、話し合いを広げることに関心を持って時間がかかりすぎて、まとめる時間が足りなくなってしまうことがあったが、検証授業後は、時間配分を意識して進行

表5 司会以外の児童の変容

自己評価カード・発言から分かる変容	教師が観察法により把握した変容
司会に進め方を教えてあげたことがよいと思いました。	司会が、話し合いの進め方が分からなくなって困っていたとき、司会を助ける発言がみられた。
〇〇君が、最後に知恵を出してくれました。	意見が分かれたとき、互いの意見を生かすような発言がみられた。
10秒は長いけれど、5秒なら賛成です。	意見が分かれたとき、互いに納得できる案を提案して譲歩することができた。

することができるようになった。司会以外の児童は、司会を助けるような発言をして進行に協力したり、互いの考えを生かす発言をしたりすることができた。また、発言内容の共通点と相違点を理解し、折り合いを付ける発言ができた。検証授業後のアンケートの結果では、話し合いをまとめる上で大切な要素である「話題からそれないように気を付けて発言している」の項目は、78.2%から95.6%に増加した。これらのことから、児童の話し合いをまとめようとする意識が高まり、学級活動(1)の学級会での話し合いに結びついていることが分かる。意見をまとめ、合意形成をするための指導計画が有効であったと言える。

2 伝え合う力を活用するための自己評価カードの有効性

検証授業では、伝え合う力の活用について、次のような結果が得られた。理由を挙げて話すことは、互いの考えや思いを理解し合うために欠かせないことであり、合意形成をする話し合いには必要な要素である。検証授業後のアンケートの結果では、「意見を言うときに理由を言うことができる」の項目は52.1%から91.3%に増加した。ややあてはまるを含めると、100%の児童が意見を言うときには、理由を言うことができていると分かっていた。(図1)この項目は、国語科第3学年及び第4学年「話すこと・聞くこと」の指導事項である。このように、伝え合う力の活用が増加したのは、自己のめあてのめたせ方を工夫し、自己評価カードを用いて伝え合う力の活用について自己評価させる指導を行った効果であると分析する。

2 伝え合う力を活用するための自己評価カードの有効性

3 合意形成について

アンケートの結果では、「学級会で決まったことに不満はない」の項目は、73.9%から95.6%に増加した。「ややあてはまる」を含めると、100%の児童が話し合いの結果に納得し、合意形成をしていることが示された。(図2)このことから、他者の立場や考えを尊重して伝え合い、互いの思いや願い理解して話し合いをまとめることができるように指導を工夫すれば、児童は合意形成をする話し合いができるようになるということが分かった。

3 合意形成について

IV 今後の課題

互いの考えや思いを伝え合い、合意形成をするためには、話し合う時間を確保するとともに児童の実態に応じて指導計画の改善を図ることが課題である。

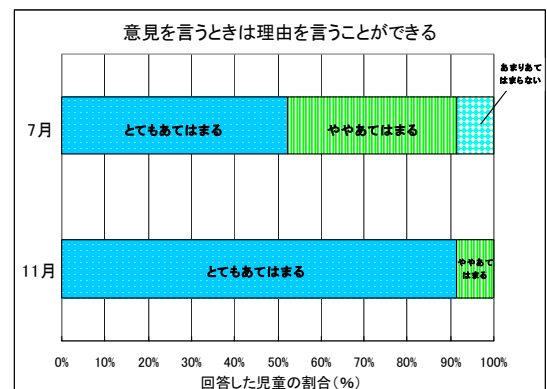


図1 「理由を挙げて話すこと」について 検証授業前後のアンケート結果の比較

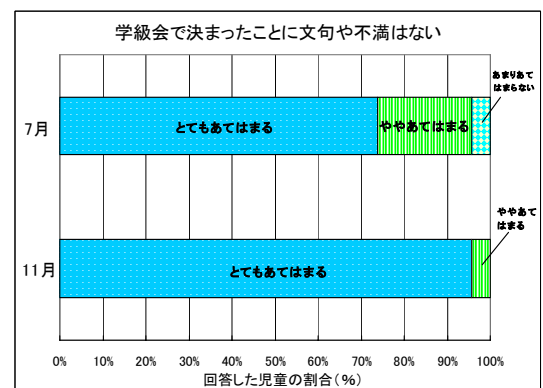


図2 「合意形成」について 検証授業前後のアンケート結果の比較